

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

アジア文化研究所研究所プロジェクト「境域アジア のトランスナショナル・コミュニティ 地域間比較 研究の試みとして」

雑誌名	アジア文化研究所研究年報
巻	42
ページ	369-382
発行年	2007
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00011398/

―地域間比較研究の試みとして―

《研究期間》 平成一九年七月～平成二〇年三月

《研究代表者》 松本 誠一（社会学部教授／アジア文化研究所研究員）

《研究分担者》 植野 弘子（社会学部教授／アジア文化研究所研究員）

山本須美子（社会学部准教授／アジア文化研究所研究員）

小林 正夫（社会学部准教授／アジア文化研究所研究員）

長津 一史（社会学部准教授／アジア文化研究所研究員）

後藤 武秀（法学部教授／アジア文化研究所研究員）

比嘉 佑典（文学部教授／アジア文化研究所研究員）

金 東光（釜山大学校教育学科・契約教授／アジア文化研究所客員研究員）

研究所客員研究員

《研究目的》 冷戦体制の崩壊後、一九九〇年代以降のアジア各地の社会変

容を特徴づける現象の一つは、グローバルゼーションと総称される人・物・

情報の地球規模での流動化にともなう、国家に規定された政治的境界を跨

ぐ共同体、トランスナショナル・コミュニティの増大である。特に注目さ

れるのは、家族や民族、在地の宗教共同体のような、従来、限定された空

間に生成することが多く、一つの国家の枠内に収斂することが自明視され

てきた共同体でさえも、しばしば異なる国家に属する成員によって構成さ

れ、それゆえ必然的に複数の国家に跨る関係を内包するようになってい

ることである。

科学研究費等の獲得を前提とした本プロジェクトの長期的目標は、東ア

ジアと東南アジアそれぞれの境域―主に国境地域に位置する地理的・政治

的周縁―における、家族、民族、宗教共同体の三つのレベルのトランスナ

ショナル・コミュニティの生成・再編の歴史過程ならびにその制度的背景

を、これらの地域において国民国家の枠組みがほぼ現在のものになった一

九六〇年代から現在までの五〇年ほどの時間幅で比較考察することである。

この目標のもと、具体的には下記の四つの研究課題群を明らかにする。

- (1)〔制度的背景〕 日本、韓国、台湾、フィリピン、マレーシア、インド
ネシアにおける国籍・市民権、住民登録、出入国管理
に関する制度・政策とその歴史の変遷

- (2)〔家 族〕 異なる国家に生活基盤を持つ成員からなる家族におけ
る成員個人の越境の実践と生活史

- (3)〔民 族〕 複数の国家にまたがる民族・準民族集団におけるコレ
クティブな越境の実践とトランスナショナル・ネット
ワーク形成の過程

- (4)〔宗教共同体〕 在地の宗教共同体のトランスナショナル化と宗教実践
の変容

今年度は、この長期的目標を念頭におき、(1)各メンバーが役割分担
に従って調査研究を進めること、(2)将来の海外連携調査において中心
的な共同研究者となる予定の外国人研究者二名―韓国の金東光（アジア文
化研究所客員研究員）とマレーシアのジュナエナ・スレハン（マレーシア
国民大学人文社会科学部・准教授）―を本学に招聘し、トランスナシヨナ
ル・コミュニティの地域間比較研究構築に向けた国際ワークショップ

“Preliminary Studies on Transnational Communities in Asian Peripheries: Perspectives from Comparative Area Studies” (公開) を開催すること、(3) 同時に本研究プロジェクトの実行可能性を検討し、プロジェクトを組織・運営していくための具体的方針・計画を策定すること、(4) 前記国際ワークショップのプロシードィングス(報告書)を出版することを目的とする。予算は主に(2) (4)の目的に使用される。国際ワークショップは、二〇〇七年一月二三―二四日に本学で開催した。なお金とジュナエナは、科学研究費採択時には、研究協力者として本プロジェクトに参加する。

《研究経過》

平成一九年六月二一日 この日付で本プロジェクト計画案に対する採択通知を受ける。

なお、これに先行して、平成一八年七月一八日に研究所内に「トランスナショナル・コミュニティ研究班」名乗りについて最初の打合わせ会を持つ。同年一〇月二日、科研費申請に関し会合。同年一月二〇日、白山人類学研究会で松本誠一が「トランスナショナル・ファミリー(跨境家族) 小考―海外韓人の事例などから」を報告。

六月二八日 研究計画を実行に移すため、研究計画調書を提出。

七月二六日 調書の承認を受けて、プロジェクト・メンバーが集まり、

研究計画の実施スケジュール・役割分担等を協議する。

一〇月九日 プレ・ワークショップ。一月に予定の国際シンポジウム

のプログラム案、予算執行計画の細部を検討するとともに、後藤武秀研究員が「越境する台湾人」を報告。

二月二三日 国際ワークショップ“A Preliminary Study on Transnational Communities in Asian Peripheries: Perspectives from Comparative Area Studies” (「アジア境域におけるトランスナショナル・コミュニティの予備的比較研究」、発表は英語による) (プログラム別掲)

二月二四日 研究班会議。(1) 前日の国際ワークショップについて反省、評価。(2) 英文プロシードィングス編集・印刷の打ち合わせ。(3) 今後の共同研究について意見交換。



23日午前の報告者打合せ会



国際シンポジウム後に

《次年度以降の研究継続に向けて》

幸い今年度後半期の研究所プロジェクトに採択されて、共同研究の端緒を開くことができた。次年度以降も継続する機会が得られれば幸いである。

A Preliminary Study on Transnational Communities in Asian Peripheries : Perspectives from Comparative Area Studies

Date: November 23, 2007

Venue: Sky hall, 16th Floor, Building No.2, Hakusan Campus, Toyo University

Organizer: Asian Cultures Research Institute (ACRI), Toyo University

PROGRAMME

12.30-12:50 Registration of Participants.

12:50-13:00 Welcoming Remarks. Prof. YOKOKAWA Sin, Director, Asian Cultures Research Institute.

Opening Address. Prof. HIGA Yuten, Head, Center for Asian Area Studies, Toyo University.

13:00-13:10 Introduction. Assoc. Prof. Dr. NAGATSU Kazufumi, Faculty of Sociology, Toyo University.

Session 1: Perspectives from Southeast Asia.

Moderator: Assoc. Prof. KOBAYASHI Masao
Faculty of Sociology, Toyo University.

13:10-13:40 Exchange and Reciprocity among Homo Mobilitas: A View From a Samar Village, Philippines. Dr. HOSODA Naomi, Research Fellow, Center for Integrated Area Studies, Kyoto University.

13:40-14:10 Communities at the Edge: Pulau Banggi in Transition. Assoc. Prof. Dr. JUNAENAH Sulehan, Faculty of Social Sciences and Humanities, Universiti Kebangsaan Malaysia.

14:10-14:40 Living on the Border: Mobility and Networks of the Sama-Bajau in the Sulu-Makassar Sea. Assoc. Prof. Dr. NAGATSU Kazufumi

14:40-14:50 Coffee Break.

Session 2: Perspectives from East Asia.

Moderator: Prof. HIGA Yuten

14:50-15:20 An Important Factor to Support East Asian Economical Circle: Taiwanese Transnational Movements to Mainland China.

Prof. GOTO Takehide, Faculty of Law, Toyo University.

15:20-15:50 Passing across the Borders: Some Cases of Korean Transnational Families.

Prof. MATSUMOTO Seiichi, Faculty of Sociology, Toyo University.

15:50-16:20 A Korean Christian Mission in Southeast Asia: Building a Model of Transnational Community.

Prof. Dr. KIM Dong-Kwang, Department of Education, Pusan National University, South Korea.

16:20-16:30 Coffee Break.

16:30-16:50 Comments

Prof. Dr. UENO Hiroko, Faculty of Sociology, Toyo University

Discussion

Moderator: Assoc. Prof. KOBAYASHI Masao

16:50-17:20 Comparative Perspectives on Transnational Communities in Asian Peripheries.

17:20-17:30 Closing Remarks

Prof. MATSUMOTO Seiichi

Organizing Committee, Asian Cultures Research Institute (ACRI), Toyo University

*The workshop is organized with a fund granted by Toyo University.